

# 幾何公差講習会

## (1日初級講座)

日本設計工学会の幅広い経験と知識、設計業務や教育経験など豊富な実務経験に基づいた独自の教材を使用し、講義と丁寧な個人的な添削指導を行いながら、少人数制でわかりやすく学ぶことができます。

主催  
協賛

公益社団法人 日本設計工学会東海支部  
計測自動制御学会中部支部、自動車技術会中部支部、  
精密工学会東海支部、日本機械学会東海支部、日本  
技術士会中部本部、日本材料学会東海支部、日本図  
学会中部支部、日本塑性加工学会東海支部

## 図面表現力・読図力が確実に身に付く講習会

### ご参加していただきたい方

- 幾何公差について最新のJIS・ISOに基づいた国際的な図面表現力、読図力を習得したい方
- 調達・購買・検査・品質・管理部門などの業務で図面表現を学びたい方
- 製図に関連したエンジニアや社会人
- 製作図面を仕事で用いる方
- 社員の製図での幾何公差教育とお考えの方
- 幾何公差を用いた製図CADの従事者

### 日時・場所・講師陣・参加費・申込方法

日時：8月5日(土)の1日初級講座

開催時間：9時30分～17時00分(9時30分より受付)

開催場所：名城大学天白キャンパス  
研究実験棟Ⅱ K-261(多目的室)  
(地下鉄鶴舞線「塩釜口/名城大学前」下車  
1番出口徒歩約4分)

<https://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/tenpaku/>

定員：30名

講師陣：

今泉 敏幸 (中央発條(株) 元常務取締役)  
大西 正敏 (愛知工科大学 学長)  
藤松 孝裕 (鈴鹿工業高等専門学校 教授)  
伊藤 智啓 (名古屋工業大学 准教授)  
杉浦 利幸 (小島プレス工業株式会社)  
石丸 英章 (竹田設計工業株式会社)  
本山 信彦 (株式会社豊田自動織機)  
他

参加費：

- ・会 員 ￥5,000円  
(賛助会員企業からは複数名まで参加可能)
- ・非会員 ￥6,000円  
(参加費は当日受付にてお支払いください。)

#### 【申込方法と締切】

E-mailにて、「幾何公差講習会【初級講座】の申込」と標記し、①氏名、②勤務先、③所属部署、④参加券送付先E-mailアドレス、⑤会員番号(会員でない場合は会員外と明記)をご記入のうえ、7月21日(金)17時までに、下記へお申込み下さい。ただし、新型コロナウイルス感染状況に応じて、中止する可能性があります。

### 講座の概要

幾何公差に関する最新のISO規格ならびにJIS規格に基づいた正しい理解力と表現力が身に付くように、少人数制で短期間・集中的に指導します。ただし、機械製図の基礎知識を学んでいない方には、難しい内容になります。

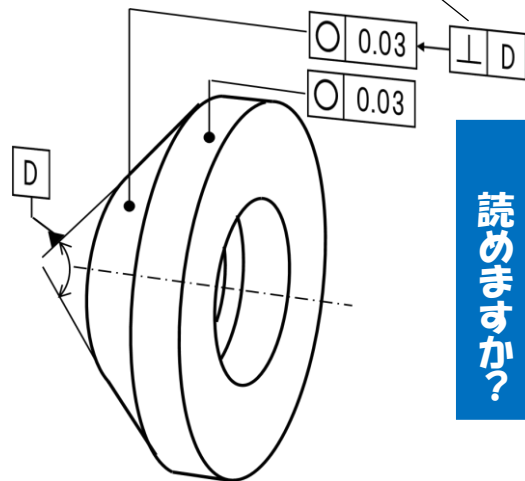
グローバルな産業活動の進展に伴い、製品の技術情報の交換は益々重要になり、特に、製品の幾何特性仕様を曖昧さなく記述する「共通の言語」が必要になってきています。幾何公差に関する最新のISO規格は、そのような「共通の言語」として開発された規格であり、JIS規格にもその内容が反映されつつあります。本講習会では、最新の幾何公差に関する基本的な考え方やルールが理解できるように、講義と演習を行います。なお、さらに詳細について習得したい方は、【2日間、ステップアップ講座】にも、ご参加下さい。

#### 【主な内容】

1. 幾何特性仕様の設定で用いる「モデルについての基礎的事項」及び「幾何特性仕様の種類とその指示方法」
2. 公差表示方式の基本原則(適用の原則、形体の原則、独立の原則)
3. 幾何特性仕様とデータムの指示方法及び公差域の解釈
4. データムの定義

※講義内容に変更が生じる場合もあります。  
持参用具については、後日ご連絡いたします。

最新のISO規格では、この記号を使用することで曖昧さを排除しています。



この図面  
あなたは  
読めますか？

#### 【申込み・問合せ先】

(公社)日本設計工学会 東海支部 幾何公差講習会 担当幹事 高見 征二  
TEL 052-705-3931 E-mail: takami@mediacat.ne.jp

# 幾何公差講習会（初級講座）の配布テキストの内容概要

## 第1章 はじめに

グローバルな産業活動の進展に伴って、技術的な製品情報の交換は益々重要になってきている。そして、その産業活動を円滑に進めるためには、製品情報、特に、製品仕様を曖昧さなく記述できる「共通の言語」が必要である。製品の幾何特性仕様に関するISO規格（ISO GPS規格）は、そのような「共通言語」として開発された規格であり、その基本的な考え方やルールを理解しておくことが、今後の国際的な産業活動では必須になると思われる。

．．．

## 第2章 設計プロセスと幾何特性仕様

幾何特性仕様の設定で用いる「幾何モデルについての基礎的事項」及び「幾何特性仕様の種類とその指示方法（サイズ公差と幾何公差）」の概要について解説。

## 第3章 公差表示方式の基本原則

「設計仕様の定義」や「図面の作成と解釈」に必要な幾つかの基本原則（適用の原則、形体の原則、独立の原則）について解説。

## 第4章 形体への幾何特性仕様の指示方法

## 第5章 データムの指示方法

## 第6章 公差域

公差域の標準の解釈、可変幅の公差域、誘導形体の公差域の姿勢及び円筒と球の公差域について解説。

## 第7章 幾何特性仕様の指示

公差インジケーター、表面・形体インジケーター、公差インジケーターの隣接指示、及び積み重ねた公差インジケーター等、基本事項について解説。

## 注記

1. 公差インジケーターは、JIS規格では幾何公差記入枠と呼ばれている。
2. 図面指示の曖昧さを排除するために導入された表面・形体インジケーターは、JIS規格には、まだ、反映されていない。

## 第8章 補足指示

## 第9章 理論的に正確な寸法（TED）

## 第10章 限定仕様

## 第11章 データムの定義

幾何公差の指示や解釈で必要となる「データムの定義」について、最新のISO規格に従って、解説する。

参考までに、最新のISO規格では、データムは、「実用データム形体」ではなく、チェビシェフの当てはめ基準によって当てはめた「当てはめ形体」で定義される。